



吉田 茂 国際交流基金



第12回 八百津町中学生海外派遣事業

中学生海外派遣研修を終えて ～笑顔と絆～

八百津町教育委員会 学校給食共同調理場 場長 山田 一夫

1. はじめに

今年度で12回目を迎える中学生海外派遣事業、実は私の子どもは第1回目に参加しており、その子どもも今年で26歳、はじめてのホームステイでホームシックからだったのか泣いて電話が掛かってきたのを思い出していました。

今回の派遣には、昨年の海外派遣参加生徒による研修報告会が行われた事もあり、説明会には42名の方が参加、海外派遣に対し多くの方が関心を示してくださるなか、最終的には29名の申し込みがありました。

研修参加者を決定するため、選考委員会では英語の論文以外に面接を2日間に亘り実施、生徒一人一人の研修への参加意欲等について選考が行われ、八百津中学校17名・八百津東部中学校3名（男子5名・女子15名）の海外派遣生徒が決定されました。

より良い研修とするため行われた事前研修。全員研修参加への意識が高く、派遣先で披露する合唱曲、盆踊りの練習、英会話実践研修、アメリカの文化や生活に関する研修等、4日間を通し積極的に参加する生徒の姿勢を見ることが出来ました。

そんな生徒達の8月13日～22日までの10日間の活動を振り返りながら、研修の報告をしたいと思います。



2. 出発の朝～アメリカ到着 8月13日(水)

朝から快晴、集合時間の8時45分に引率者4名、生徒20名全員が元気にファミリーセンターに集合、多くの方の見送りのなか出発式が行われました。

町長、教育長より激励の言葉、生徒達の顔からはこれから始まる海外研修への期待と不安の入り交じった緊張感が伝わってきました。研修の準備には万全を期してはいるものの、何と言っても海外、団長として常に生徒達の安全を最優先に考え、この研修を無事に終え、全員が元気に帰国出来ることを唯々願わずにはいられませんでした。

多くの方に見送られ、中部国際空港へ向けてバスは出発。添乗員の泉さんは、八百津町の中学生海外派遣の添乗が今回で5回目となり、昨年度の引率者からの「安心して任せられますよ。」との言葉どおり、的確な説明と手際の良い指示を聞きながらバスは進みました。説明が一通り終わった頃、泉添乗員さんから、「今年の生徒さん達はしっかり私の話を聞いてくれますね。」と、うれしい言葉を頂き、少し誇らしく感じながら、11時00分中部国際空港に到着、出国手続きを済ませ、13時25分定刻どおりアメリカに向けてのフライトが始まりました。

13時間にも及ぶフライト、私は緊張感からか眠ることが出来ず、座席に設置されている個別のモニターで3本もの映画を見て過ごす結果となりました。

飛行機は12時25分（ここからはアメリカ時間）乗り継ぎの空港であるデトロイト空港に到着、すぐ入国審査へ。そんな中、生徒1名が長いフライト時間の影響か体調を崩してしまい、心配しながらも全員無事に入国手続きを完了することができました。